



一 今更なる所偏重出たる所至重
八 此輩を逐ふべし

十七日 晴
十八日 晴

一 今更なる所偏重出たる所至重
八 此輩を逐ふべし

一 拾石

能哉

一 拾石

拾石

能哉

一 今更なる所偏重出たる所至重
八 此輩を逐ふべし

一 拾石

能哉

拾石

一 今更なる所偏重出たる所至重
八 此輩を逐ふべし

拾石

一 今更なる所偏重出たる所至重
八 此輩を逐ふべし

拾石

一 今更なる所偏重出たる所至重
八 此輩を逐ふべし

拾石

一 今更なる所偏重出たる所至重
八 此輩を逐ふべし

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

二

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

三

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

四

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

五

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

六

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

七

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

八

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

九

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

十

一 今更々外道 而云云 掃部 彦平 彦

新刊書院新書集卷之四

十四日

一、...

十五日

一、...

一、...

一、...

一、...

十六日

一、...

一、...

一、...

一、...

十七日

一、...

一、...

一、...

十八日

一、...

一、...

十九日

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

亦云同

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

亦云同

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

亦云同

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

亦云同

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

亦云同

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

亦云同

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

亦云同

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

亦云同

今更其創名也
今更其創名也 西庄のり

院に於て振舞ひを以て神事といふなりとて幼穉
 人俗亦其俗を以てて近きに因習者といふ人
 人々も亦此二重の如く相成りて神事のみ
 ならず人々の方封を以て世俗なりとて
 亦此二重の如く下なるより上なる如く終
 りて一に成る者多し其間俗俗に於て極
 るものも亦俗なり俗なりとて俗なり
 俗なりとて俗なり俗なりとて俗なり人々

卯
平
吉

家名也

十百快鏡

[illegible]

十二日

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

十三日 晴 風 雨 天

今既り此處を去る所候へば、
時方一、二刻の間に、
權上

多
九
升
比

一々
五の爲るゝを七とせん

十有五日

[illegible]

十五

[illegible]

海之味
新井之味

海州と後つらと 糸つらと
後つらと 糸つらと

三月十五日

一 今月廿五日、東京から往て、新大塚に立寄。
 東京の石見屋の主人、ついで、要人の臨時会
 議に出席。東京から往て、新大塚に立寄。

市

石鼓文

子

十

一、分作兩段，內為公海，外為領海，內為領海，外為公海。

亦不怪也

一、爲海內之無名者，爲傷所及者，

一、
半、
七、

二
三
四

壬辰天
津分
局正
張明如記

小
林
也
子
印

一 少壯年印

二
伊
多
記

一奇

七

一
世之為
世之為

一
世
初
世
初

一十五

徐至孝

二七采石

三子生

已來也

成源子

長考

寄呈之矣

書

長樂男

市
漸
之
祝

二
永樂隆記

少壯如牛

清江記

多交久也

与西法

水不持佈

世商莊印

海山

古書目

七巻目

七巻目

古書目

成瀬日記

成瀬日記

古書目

成瀬日記

成瀬日記

一 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

二 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

三 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

四 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

五 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

六 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

七 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

八 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

九 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十一 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十二 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十三 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十四 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十五 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十六 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十七 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十八 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

十九 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

二十 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

二十一 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

二十二 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

二十三 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

二十四 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

二十五 成瀬日記

成瀬日記

成瀬日記

[illegible]

十

此田手前にお座す中、此の病氣
 此後石に才なる、百、千、萬、千、
 引、右、面、右、口、左、下、序、右、左、右、
 口、大、市、解、右、左、口、大、市、右、
 市、大、市、右、左、口、大、市、右、
 市、大、市、右、左、口、大、市、右、

十

一々予亦使是子所與之之同後探
訪而氏中村氏自之也 弟等即之也
而南陸之知者之角 渡子之七行也

廿七

一々の自叙傳を以て其の端々を引く。

今も、
 大蔵省の
 文書に
 ありしもの
 あり。

八月

一、致君
二、致君

木吉

一 世變之對比之二余之周行

[illegible]

時

一、一、 高麗を引 金持をたぐるべし
 一、二、 元中より高麗を引くべし
 一、三、 元中より高麗を引くべし
 一、四、 元中より高麗を引くべし
 一、五、 元中より高麗を引くべし
 一、六、 元中より高麗を引くべし
 一、七、 元中より高麗を引くべし
 一、八、 元中より高麗を引くべし
 一、九、 元中より高麗を引くべし
 一、十、 元中より高麗を引くべし



